

東奥信用金庫

地域内企業の業況レポート
No. 122
2023年7～9月期

本レポートは、情報提供のみを目的とした当金庫の意見です。

当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、この情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

〒036-8182 弘前市大字土手町81
TEL 0172-33-8404 業務部 -2023.10.31-
HP <http://www.shinkin.co.jp/toshin/>

《今回調査のポイント》

● 7～9月期（今期）業況判断DI値 横ばいで推移

7～9月期の業況判断DI値は、前回調査比0.3ポイント低下の2.8とやや低下し、前回予想値(2.4)に対しては0.4ポイント上回る結果となった。項目別では、売上・受注で8.9ポイント低下の9.3、売上数量が11.7ポイント低下の6.2、利益でも9.7ポイント低下の▲5.2と全項目でやや低下となった。

前期、新型コロナウイルス感染症が5類に分類された影響により日常生活が大きく変化し、各業種とも業況は大幅に改善されDI値はプラスに転じた。今期も、夏祭りや各種イベントがフル開催となり、業況は良好に推移しているものの、エネルギー価格や原材料・仕入価格の高騰が続いていること、利益確保については各企業とも厳しい状況となっている。



業況お天気図

● 10～12月期（来期）各項目別DI値 横ばいを見込む

10～12月期の見通し業況判断DI値は、今回調査比0.4ポイント低下の2.4とやや低下の予想となった。項目別では、売上・受注で2.4ポイント低下の6.9、売上数量が4.8ポイント低下の1.4、利益では3.1ポイント上昇の▲2.1と総体的にやや低下傾向であるが、利益はやや改善となった。

飲食業を主体に業況は改善されている一方で、前回同様に「エネルギー価格の高騰」や「原材料・仕入価格のさらなる高騰」が継続していることから、各業種とも厳しい見通しとなった。年末に向け好材料もあるが、各企業とも経費の削減・効率化等による利益確保が課題となっている。また、業況の回復に伴い「人材不足」を懸念する業種もあり、前回調査時に比較しても「人材不足」をあげた企業が多くなっている。



業況予想お天気図



お天気図



(お天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。)